

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	11
都道府県名	埼玉県

【  】  
\*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模(平成15年4月現在)

学校名	熊谷市立熊谷南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	3	0	14	19
児童数	61	73	100	59	79	84	0	456	

研究の概要

(1) 研究主題

「確かな学力の向上をめざす教科担任制・少人数指導の研究」

(2) 研究主題設定の趣旨

平成14年度、学力向上フロンティアスクールの指定を受けるにあたり、そのねらいである確かな学力の向上には、児童に自ら学び自ら考える力の育成と基礎・基本の確実な定着が必要であると考えた。そのためには、新しい指導システムの導入が必要との結論に達し、教員の得意分野を生かした教科担任制と児童の理解や習熟の程度に応じた少人数指導の研究に取り組むこととした。

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

(1) 研究推進体制の工夫

**授業研究部**  
**教科担任制研究部**  
本校で考える教科担任制のよさは、「学年担任という意識での関わりの中で児童理解が多面的になること」「教材研究を深め魅力ある授業ができ、児童の学ぶ意欲を高めていくこと」と、とらえている。そこで、同じ学年内で担当教科を受け持つ体制とした。

**少人数指導研究部(算数科)**  
本校で考える少人数指導のよさは、「個に応じるために、児童理解を深め、きめ細かな指導ができること」と、とらえている。そこで、1クラスを担任と担任外との2人で責任を持って受け持ち、年間を通して指導者を固定する体制とした。

これらの他に推進班を設け、研究を支える体制を構築した。

- 教科を支える力の育成班
  - 学習の構えの育成
  - 学習を支える力の段階的育成
  - 補充学習の設定(夏・冬休み中に)
  - 朝の学習の時間の充実
- 調査研究班
  - 意識調査考察(児童、保護者)
  - 学力調査考察

#### 日課時間割研究班

- ・ 教科担任制と少人数指導を実施する上での効果的な時間割作成
- ・ 教科担任制・少人数指導を円滑に行うための工夫

#### 広報班

- ・ インターネットによる情報発信
- ・ フロンティアだよりの発行
- ・ 学年ごとのシラバスを家庭に配付

### (2) 研究の実際

#### 教科担任制 5・6年 国語、社会、理科

教科担任制は、平成14年度には、3年生以上で実施した。しかし、中学年では、発達段階から学級担任との関わりを望む声が大きく、教科担任制のよさを感じ取れる段階ではないことが明らかになった。そこで、平成15年度は、5・6年で実施することとした。

教科は、平成14年度は本校の児童の実態を踏まえて、すべての学習の基盤となる国語の力の向上が不可欠であると考え「国語」を、児童の科学的なものの見方や考え方、実験・観察の技能・表現を系統性や連続性を踏まえて伸ばすために「理科」を教科担任制の重点教科として実施した。

平成15年度は、5・6年の系統性を踏まえ、「国語」「理科」に加え「社会」も実施することとした。このことにより、児童の学習の積み重ねに連続性を持たせ、意図的に指導のねらいを設定できると考えたからである。

#### 少人数指導 全学年 算数

少人数指導は、全学年、全学級で実施している。どの学年でも同じように力をつけていきたいという教師の願い、自分の家の子をきめ細かに見てほしいという保護者の願い、それに何より「わかるようになりたい、できるようになりたい」という全ての児童の願いに応じるためである。

少人数指導に入る担当者は担任外とし、年間を通して固定した。これは、評価に責任を持つということにつながる。さらに、共通理解のもとで指導することにより児童理解が深まり、個に応じたきめ細かな指導が図れるであろうと考える。

### (3) 研究の成果と課題

#### 教科担任制の成果

- ・ 教科担任制は、高学年から導入する方が適切であることがわかった。
- ・ 学年内教科担任制は、児童を多面的に理解し、指導にいかすことに効果的であることがわかった。
- ・ 同一単元の授業を複数回実施できることにより、教材研究を深め、工夫した授業ができた。
- ・ 小学校での教科担任制を支えていくために、児童と教師や教師間で必要なことを明らかにできた。
- ・ 学級担任としてやるべきこと、教科担任として行うこととを整理でき、教科指導の責任者としての意識を持てた。

#### 少人数指導の成果

- ・ 年間を通して担当者（担任・担任外）を固定し、全学年・全時間実施することにより、指導者間で意思の疎通が図れ、責任もって指導できた。
- ・ 実態や学習内容に応じて多様なコースを設定し、個に応じた手立てを行うことで、児童の「わかる・できる」喜びを高めることができた。
- ・ 年間指導計画・評価計画、補助簿、自己評価カード等を全員で作成し、打ち合わせの効率化を図ることができた。

#### 課題

- ・ 複数の教師で、児童を多面的にとらえ、それぞれの教師が見つけた児童の状況を、教師間で共有し、さらに指導にいかすように工夫する必要がある。
- ・ 自分にあったコースを自己選択できるように、さらに自己評価能力を育てるための工夫をする必要がある。
- ・ 習熟度別学習が、より個に応じたものになるために、発展的な問題の分析と指導方法を研究する。
- ・ 学習集団を分けて授業を行うことへの、保護者の抵抗感や不安感をより一層

解消していくようにする。

( 4 ) 研究成果の普及の方策

- ・ 学校研究内容説明会 平成15年4月18日 本校体育館 対象保護者
- ・ 学力向上フロンティアスクール研究発表会 平成16年1月30日
- ・ 学力向上推進協議会実践発表 平成16年2月10日 埼玉会館
- ・ 研究内容について本校ホームページにて随時公開
- ・ 研究成果説明 平成15年6月30日 花園町立花園小学校
- ・ 研究成果説明 平成15年11月19日 小平市小・中学校研究主任研修会
- ・ 研究成果説明 平成16年2月26日 日の出町教育委員会研修会

( 5 ) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

高学年の「新聞コラム」の取組

- ・ 調査結果から、本校の児童は、書いて答える力が弱いことが明らかとなり、その改善策として継続して取り組んでいる。
- ・ 小学生新聞の記事を題材に、記事を読んで自分の考えを書く力を毎日継続することで、育成している。
- ・ 金曜日の朝の学習の時間には、一斉で行い、担任が書き方や内容について指導をしている。金曜日以外は、家庭学習で行っている。
- ・ 国語部が新聞記事を選び、プリントしている。
- ・ 書いたプリントは、廊下に全員掲示し、お互いの意見を読み合えるようにしている。
- ・ 「新聞コラム」の取組は、アンケート結果でも児童自身が自分のためになっていると自覚している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作  家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

小学校における教科担任制  
「教師の授業力」「授業構成力」の向上を図って、小学校における効果的な教科担任制の推進に取り組んだ。学年担任制なので、「児童のよさ」を多面的に共有化することができ、児童一人一人に応じた指導が可能となった。

少人数指導  
「教師の授業力」「授業構成力」の向上を図り、児童の実態に応じた多彩なコース設定、数学的な考え方を身に付けさせる意図を明確にした授業構成、児童の反応を予想し引き上げる手立てなど、個に応じたきめ細かい指導の工夫がなされている。